

# 沼谷純

ぬまや じゅん

停滞から、前進へ。



[プロフィール] 昭和48年 秋田市仁井田生まれ。秋田市立仁井田小学校、秋田市立御野場中学校、秋田県立秋田南高等学校卒業。秋田大学教育学部を卒業後、秋田県庁に入庁。秋田の現状を打破するため、一念発起し、政治の道へ。県議会議員を経て、この春、秋田市長選挙に再挑戦。秋田市横森在住。

## 市民の皆さまとの約束

- ☑ 物価高騰などへの家計支援とゴミ袋有料化の検証・見直し
- ☑ 給食費・医療費・保育料の完全無償化
- ☑ 高校生・大学生の地元就職応援金を支給
- ☑ 企業誘致を現在の5倍に（年平均3.4件→20件）
- ☑ ハード・ソフト両面での防災対策の強化とスピードアップ

# 30万都市の復活へ

沼谷 純の  
主な政策

私たちが暮らす秋田市は、東北では4番目に人口が多く、産業や文化、まちづくりなどにおいて、多くの可能性と魅力を持っています。

しかし、現在の市政は、外旭川地区の開発やスタジアム整備などで二転三転するなど、停滞が続いており、残念ながら人口減少や若者流出にも歯止めがかかっていません。やはりそこには4期16年という多選の弊害が出ているのではないのでしょうか。

私は4年前に秋田市長選に挑戦し、力及ばず、敗れました。再挑戦については前回以上の覚悟と努力が必要であり、何度も自分自身にそのことを問い続けてきました。

その上で、やはり停滞する今の市政を、市民の皆さまと共に前進させていきたいという強い思いから、決断をいたしました。

人口30万人を割り込んでしまった県都秋田市をもう一度「30万都市」に戻す、そのために私の全てを賭けて、政策を実行してまいります。

市民の皆さまにも、これまでの市政に対して、届かなかった思いや声が沢山あるのではないのでしょうか。そうした思いや声を私が必ずかたちにして、解決につなげてまいります。

停滞から前進へ。皆さまと共に今度こそ。

## 1. 全ての子どもに 居場所とチャンス

- 民間フリースクールや子ども食堂への支援、多様な経験を育む教育クーポンの発行
- 夜間・休日保育の充実、保育人材の確保支援と待遇改善
- 障がいを持つ子どもたちの多様な学びと育ちを支える教育・保育体制の整備
- 学校給食をはじめとした食の安全・安心と地産地消の拡大
- 産前・産後ケアの充実、育児を見守る「安心おむつ定期便」の実施

## 2. 日本一の若者支援と 魅力ある街に

- 若者の多様な挑戦を後押しする日本一のスタートアップ支援
- 大学生が主役となった「まちづくり」の実行や企業インターンシップの実施
- デジタル人材育成のための新たな拠点整備と、県外からのデジタル人材誘致
- 音楽、演劇、ダンス、アート、アニメ、舞踊・舞踏など多様な芸術文化の振興
- 県都の顔である秋田駅前再開発の推進と観光客倍増プランの実行

## 3. 企業と人を呼び込む 「稼げる街」に

- 地元の仕事は地元の企業に。秋田市の公共発注・調達を地元企業を最優先
- 秋田市への移住・定住を促進するための新たな住宅政策の実施
- 儲かる一次産業・食品加工への支援、担い手の育成・確保支援
- 外国人材を含めた多様な人材確保のための企業支援制度の創設
- 秋田市による新電力会社設立と電力の地産地消・家計負担の軽減

## 4. 防災対策の抜本的な 見直し・強化を

- 遅れやミスのない避難指示などの初動体制の確立
- 避難所への冷暖房設置、トイレ・キッチン・バスの迅速な提供
- ペットと一緒に過ごせる避難所整備、備蓄に関する場所・量・内容の見直し
- 河川改修の促進、市街地の排水強化や、公共施設・公園などへの雨水貯留機能整備
- 市民防災会議(仮称)の設置と「市民の声」を反映した防災対策

## 5. 全世代の暮らしの 「安全・安心」を

- 市街地に出没するクマの迅速な駆除、公務員ハンターの採用
- 交通弱者ゼロを目指したバス、タクシー、ライドシェアなどの最適化
- 介護人材確保と秋田市独自の処遇改善、ICTを活用した独居世帯の見守り支援
- 医師・看護師などの人材確保・育成への支援
- 健康長寿を促進する「健康マイレージ」導入、新たなグラウンド・ゴルフ場の整備

沼谷純選挙事務所

秋田市八橋新川向13-30(旧ダイリン隣接)

TEL.018-883-3383 FAX.018-883-3384

E-mail. jnworks0330@yahoo.co.jp

沼谷純の公式Webサイト  
公式SNSはこちらから

